

下田市観光事業 視察

平成 27 年 12 月 26 日

- 日 付：平成 27 年 12 月 16 日（水）
- 場 所：下田市 観光地（道の駅、市場、市街散策ルート）
- O S P：2 名参加（増田、アドバイザー：片山）
※他、市職員 1 名、観光協会職員 1 名、商工会青年部 3 名、振興公社 2 名

市、商工観光課からの呼びかけにより、静岡県下田市への視察に帯同しました。下田市も長い海岸線を有しており、観光業に力を入れている町として御前崎と通ずる部分も多いということで現地へ伺いました。

視察は午前の部と午後の部に分けられ、午前中は市役所観光交流課の職員の方々から「まりづくり推進計画」の概要から「世界一の海づくりプロジェクト」の経過、道の駅内に観光案内窓口「しーもん」を開設するに至った経緯などを細かくご説明いただき、現段階での実績と今後の課題等についてもお話いただきました。やはり下田市も御前崎同様に景気の悪化に伴う、観光誘客の減少が深刻だったらしく、各種の交付金や補助金を受けつつ、観光業、特に「海」についての訴求力を高めるために様々な手を打っていったことを聞きました。また、地元の海に携わる方々のところへ職員が 1 か所 1 か所足を運び、話を聞き、ニーズや意見の掘り起こしを行ったという内容に、やはり細かな下準備と理解を求めようと必死になる姿勢が大切なのだと感心させられました。何より、このプロジェクトの担当者が“下田の海が好き”で、観光で訪れたたくさんの人にその素晴らしさを感じてほしいという気持ちの強さが結果となって表れたように感じさせられました。



午後は同じ会場(道の駅内の会議室)で民間の立場から観光を盛り上げようと励んでおられる、「NPO 法人 伊豆のせんたんコンシェルジュ」の増田さんからお話を聞くことができました。増田さんは同NPO法人に属しつつ、伊豆のせんたんツアーセンターの運営にも携わっておられ、独創的なツアーを作り、市内への誘客を図っていました。お話の中では市へ訪れた人への情報発信を「しーもん」で対応し、まだ訪れていない人への情報発信をNPOで対応しているといった棲み分けとのこと。また、「森林浴」に対する「海洋浴」というオリジナルの造語を生み出し、それをテーマにイベントや事業を展開しているらしく、最初はなかなか馴染まなかったものの、海風に含まれるミネラルやマイナスイオンの有効性等をネットやチラシで丁寧に説明していったところ徐々に口コミで広がって集客できてきたとのこと。ご自身もツアーガイドとして開国の地を巡るツアーなど“坂本竜馬”のコスプレをして案内するのだとか。自ら先陣を切って街のPRをする姿勢に感心させられました。

今回の視察を通して、市の観光に携わる人たちがたとえ動きは別々だったとしても気持ちをひとつにして取り組むことが大切であると学ぶことができました。また、そのためにも強い気持ちで多くの人たちを巻き込み、その人たちを集め、議論する場所を作ることで何かが動き始め、結果として観光を盛り上げることにつながっていくという、ひとつの良いモデルケースを見させていただきました。私たちが今後の事業や活動に生かしていきたいと思えます。

